

合格体験記 高知大学医学部看護学科 (3年次編入)

専攻科 石川祐里



『保健師になって人の役に立つ』幼い頃から抱き続けてきた夢を叶えるために大学への進学が決まった今、新生活への期待が膨らむと同時に、大学進学にあたって多くの人の支えがあったからこそであると改めて実感している。

母は、私が物心ついた頃から「人の役に立ちたい」とよく言っていたと言う。保健師を志すきっかけとなったのは、小学五年生の時妹が生まれたことである。家族が増えることをただただ喜んでいて私とは反対に、母は高齢出産であり様々なリスクや不安を抱えていた。母が無事出産でき、産後安心して育児ができたのは病院スタッフの方々だけでなく、保健所や地域の方々のサポートがあったからだと思う。『人の役に立ちたい』という思いが具体的に保健師という目標になり、保健師になるための看護の学びを求めて5年一貫教育の倉敷中央高校看護科に進学した。

5年間を思い返すと、看護を学ぶことは決して楽なものではなかった。しかし、様々な経験を通して多くの学びがあり、高め合える仲間と出会い、夢を諦めず努力し続けることができた。特に今年度はスマート専門高校の指定を受け、ハイブリッドシミュレーターが導入されたことにより、様々な疾患の患者さんをイメージしながらより専門的な学習をすることができた。学校での学習をはじめ、臨地実習など多くの学びがある環境に感謝している。

専攻科2年の夏、進路選択の際に第一志望にしていた大学が保健師コースの募集をしていないと分かり、先生方の勧めもあって高知大学を受験することになった。短期間で準備することに大きな不安があったが、進路実現に向けて先生や家族、友人のサポートもあり無事合格することができた。

5年間の学びや経験は言い表せないほど濃いものであった。日々の課題や授業を必死にこなし、理想と現実との葛藤に涙を流すこともあった。しかし仲間と支え合い、夢を叶えるための絶え間ない努力により、看護師としてだけでなく1人の人間としても成長することができた。5年間の日々を糧に憧れの保健師として社会に飛び出し、人の役に立つことができるよう、大学でより専門的な学びを習得していきたい。